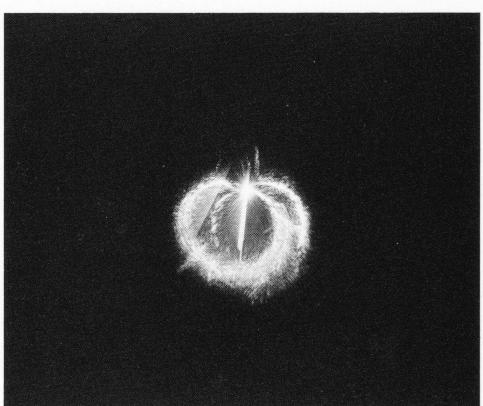


山 中 信 夫

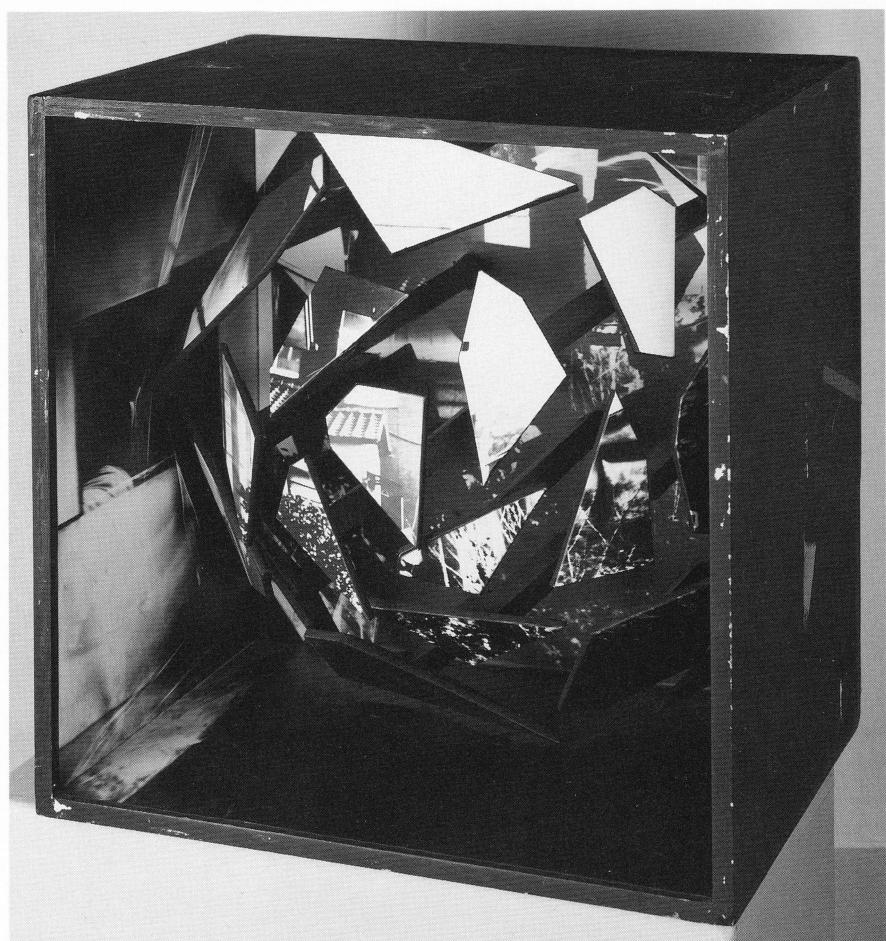
YAMANAKA NOBUO

鎌倉画廊





ある1つの点 No.4
Mono Point No.4
1981-1982
Black and White photograph,
plywood
62.0×52.0×30.0cm



ある1つの点 No.5
Mono Point No.5
1981-1982
Black and White photograph,
plywood
53.0×53.0×39.5cm

山中信夫展

YAMANAKA NOBUO

—— 絶作 Camera Obscura in Paris (1982) を中心に ——

1994年2月21日—3月24日

闇こそ光

遠い眼をした男だった。すぐ近くのものを見ていながら、彼の眼は対象を突き抜けて遠くをながめているようだった。直接話しても、彼の眼は相手のずっと彼方を見やっている。だからといって焦点を結んでいないわけでもないし、相手を無視した冷たい視線というのでもない。むしろホッとするような親和感をたたえながら、だけど距離感だけが不思議に遠いのだ。あの眼で、いつも他人とは違う距離感で世界を見つめつづけていたんだろうか。暗箱の中で、逆立した世界をながめるときのように……。

山中信夫と最後に言葉を交わしたのは、1982年の、パリビエンナーレで現地制作をするために彼が旅発つ直前の夏のことだった。特別の用もなくフラッとぼくのアトリエを訪ねて来た彼は、いつもとうり無口で、ほとんど話らしい話はしなかったような気がするのだが、一言だけ鮮明に覚えている言葉がある。

「もう迷いはない。ピンホール写真に生きていくことにしたよ」

虚をつかれるような言葉だった。その言葉が逆に、寡黙だからめったに自分のことを語りはせず悠然とさえして見えた彼の中にも、大いなる迷いと苦悩の年月があったことに、思い至らせたのだ。

1982年。ぼくらが作品を発表するようになって、すでに10年以上を経ていた。'70年代的な、嵐の後の嵐のように見えながらも熱い地熱にジリジリと肌をこがされるような想いで、あらゆる前提を問い合わせ直そうとした季節はすでに遠く、ニューウエーブという名の脳天気なコマーシャリズムの波が押し寄せていた。まだ周囲の誰もが、一点も美術館に収蔵されているわけでもコマーシャリズムの恩恵にあずかったわけでもなく、相变らずのアルバイト生活で貧乏暮らしだったが、時代は確実に変化していた。多くの作家が、前提を問い合わせ直す“前史”の時代を終えて転回を果たすか、あるいはすでに美術の現場から遠去かろうとしていた。また多くは家庭を持ち、あるいはそれも再び壊わし、ともあれサイクルがひとつゴロンと回わってしまっていた。

そんな中で、彼だけが10年という年月がまるで夢だったかのように、相变らず童顔のまま、家庭も持たず生活スタイルもファッショングも変わらず、そして何よりも“前史”的なまま当初と同じようにピンホール写真にこだわりつづけていたのだった。

そんな彼を迷いとは無縁な悠揚とした確信犯とも、ナイーフとも、あるいは時代に対する鈍感さとも見ることはできたはずだ。

しかしそうではなかった。そんな彼にもやはり時代との葛藤や変化への渴望など、迷いはあったのだ。彼の迷いの季節は、1977年にパリで個展を行い、「この展覧会をもって、ワンサイクル終わった気がしないではない。また、もうここまでくれば展開のしようがない」(『美術手帖』77年11月号)と思ったと自ら書き記したときからの数年間ということになるのだろう。

その迷いの中で彼は、ピンホール写真を捨て、壊わし、再び選び直し、そうやって操作された情報としての写真から見ることの原型

堀 浩哉 HORI KOSAI

としての写真にまで、再び自分の作品を鍛え直していたのだろうと思う。

闇こそ光なのだ、と断言肯定するようにして。

「もう迷いはない」

と言い残した彼は、パリで絶作となった『Camera Obscura in Paris』を作り上げ、その後ニューヨークへ回り、再び帰ることなく客死してしまった。みごとなサイクルの閉じ方だった、と今だからこそ、そう思える。

あれから12年、今年はもう13回忌になる。その間に、時代はまた大きなサイクルをひと回りして、世界は激変してしまったが、そんな歴史の波にもまれて彼の作品は今もまだ生きているのだろうか。

ニューヨークで荼毘にふされ、小さな骨壺に入ってもどってきた彼を、墓に納骨した瞬間のことは、今も忘れることができない。

痛いほどの怒りにつき動かされて、涙があふれ出た。弔い合戦をしてやる。そう思った。誰に対して? そんなことはどうでもよかった。どうやって? なんとしても、彼の作品を残してやる。そう思った。

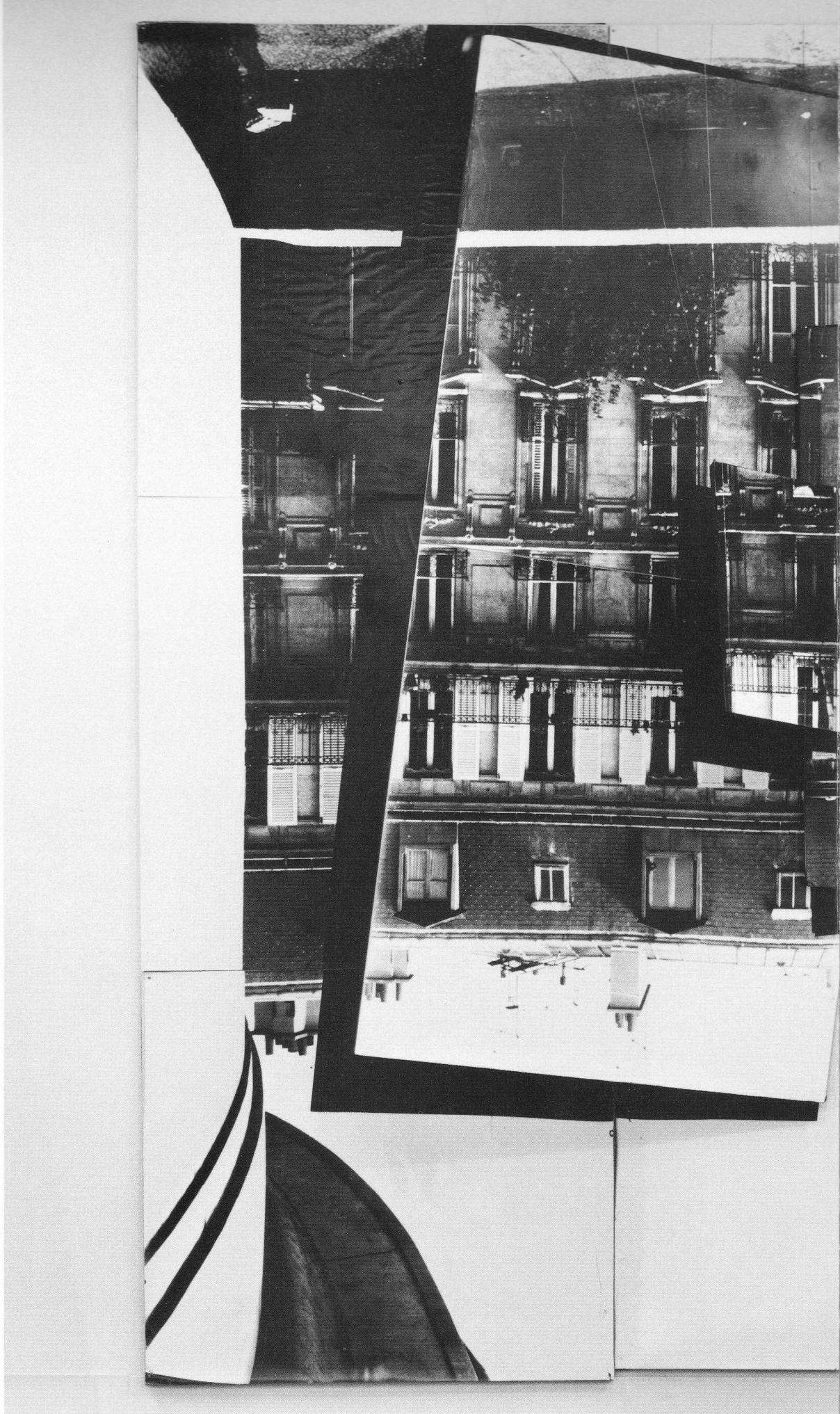
歴史の中に作品を残す、などという大それたことができるはずもないことはわかっていた。ただ、とりあえずは物理的に残すことが問題だった。美術館にも収蔵されず、個人コレクターがいるわけでもなく、保存がむずかしい上に整理もされていない作品たちは、放っておけば消滅するしかないはずだった。

それを整理し、いつの日にか回顧展を開き力タログレゾネを作り、コレクターや美術館にも蒐集してもらう。それは、歴史に選ばれる可能性というスタート台に立つための、必要最低条件だった。その上で、作品が後世に残るか否かは、歴史が選ぶことだ。

少くとも、その必要最低条件が満たされいいだけの作品を、彼は生命をかけて作り上げてきたはずではないか。しかし現実には、新しい現象としてもてはやされた短かい季節の後には、しだいに無視され、次いでたれ流しの汚物のように顔をそむけられ、やがて忘れ去られてしまう。この国でいつもくり返されてきた、そんなアートの流産の歴史の中に、彼の作品もまた流し去られてしまうのだろう。ならば、残された作品をスタート台に立たせてやることが、生き残されたものせめてもの弔い合戦だ。

今にして思えば、怒りの中で思っていたのは、そういうことだった。

それが正しい選択だったかどうか、さらにそれが十分にできえたのかどうかは心もとないが、できるだけのことはやってきたはずだ。その上で、今もまだ彼の作品が生きているのかどうか……。もちろんぼくは、彼の作品が歴史に選ばれ、歴史を突き抜けて生きていることを確信している。そんなことを言えば、あの遠い眼をした男はテレしたような笑みを浮かべてボソッと「そんなこと、どうでもいいよ」と言いそうな気がしないでもないのだが。





パリのカメラ・オブスクラ
Camera obscura in Paris
1982
Black and White photograph,
styrene board
240.0×240.0×50.0cm
撮影：内田芳孝

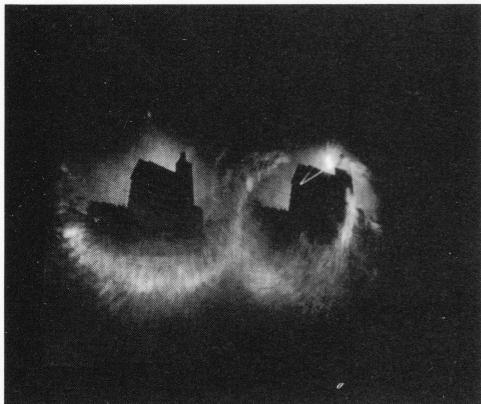
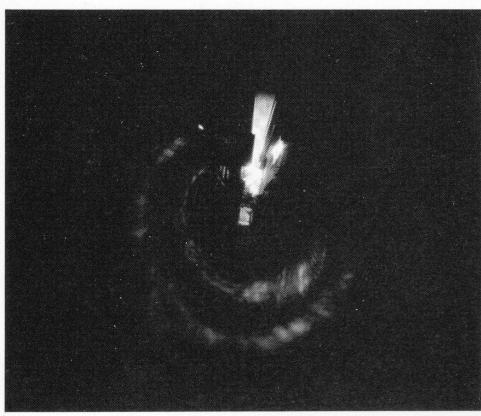
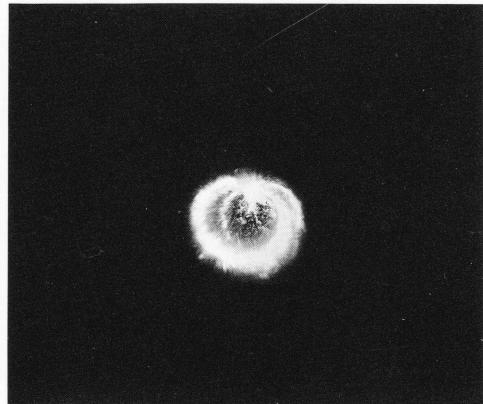
Nobuo Yamanaka Biography

1948 Born in Osaka.
1969 Entered Tama Art University: left in midcourse.
1970 Organized the Bikyoto REVOLUTION Committee with Renji Tajima, Yasunao Tone, Naoyoshi Hikosaka, Kosai Hori.
1971 25-27 June "Projecting the Film of River on the River", Bank of the Tama River, Tokyo, produced by the Bikyoto REVOLUTION Committee, directed by Nobuo Yamanaka.
1972 3-8 July, Individual Exhibition "Cadrage de Rivière (Quadrangle of the River)", Nirenoki Gallery, Tokyo. August: Published "Copying" on the Bijutsu Techo.
17 September, Individual Exhibition "Diffusion de Rivière (Diffusion of the River)", Tamura Gallery, Tokyo.
14-19 October "The 5th Exhibition of Contemporary Plastic Art", Kyoto Municipal Museum of Art.
24-26 November "Cinema Dodouble", Atelier Sinon, Tokyo.
1973 25 February-9 March "Kyoto Independent Exhibition", Kyoto Municipal Museum of Art.
7-19 May "Affair and Practice • by 12", Pinar Gallery, Tokyo.
3 June "5 Artist + 4 REVOLUTION Photography", Tokiwa Gallery, Tokyo.
10-19 August "1973 Kyoto Biennale", Kyoto Municipal Museum of Art.
4-14 September "The 6th Exhibition of Contemporary Plastic Art", Kyoto Municipal Museum of Art.
September: attended the 2nd Bikyoto REVOLUTION Committee.
24-29 September "Printing Machine", Tamura Gallery, Tokyo.
3-14 November "Artist to-day Exhibition '73", Yokohama Civic Gallery.
1974 7 September-March 1975 "Contemporary Japanese Art (JAPAN I BILD Konst fran fyra arhundraden)", Louisiana Humlebaek (Denmark), Göteborgs Konstmuseum (Sweden), Henie Ostad Kunstcenter (Norway).
1975 10-18 January, Individual Exhibition "9 Pinholes", Nirenoki Gallery, Tokyo.
19 April: attended the Street Play "Knock", Tokyo.
15 November-14 December "Affair and Practice—Why It—", Contemporary Culture Center, Tokyo.
1976 10-17 January, Individual Exhibition "Contact Printing", Nirenoki Gallery, Tokyo.
20 March-20 April "First Pan Pacific Biennale", Auckland City Art Museum, New Zealand.
16 August: left for Paris, travelled Germany, Denmark, Italy etc.
1977 7 May-6 June, Individual Exhibition "Nobuo Yamanaka", Liliane & Michel Durand-Dessert, Paris.
8 August: returned to Japan.
17-23 October, Individual Exhibition at Gallery Shin Tamura, Tokyo.
1978 23-29 January "Matter of Photography", Hamanoya Gallery, Tokyo.

1979 10-21 January Individual Exhibition at Ai Gallery, Tokyo.
29 June-28 October "The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo" The National Museum of Modern Art, Tokyo, The National Museum of Art, Osaka, Museum of Modern Art, Hokkaido.
25 August: left for Brazil.
3 October-9 December "15. Bienal Internacional de São Paulo", Brazil.
1980. Travelled around South-Middle America.
3 March: left Brazil for New York.
5 May: left New York for Paris.
28 May: returned to Japan.
1981 10-17 Junuary, Individual Exhibition "Manhattan in Pinhole", Muramatsu Gallery, Tokyo.
6-18 July, Individual Exhibition at Muramatsu Gallery, Tokyo.
1982 "International Graphic Art", Bilbao (Spain).
2 September: left for Paris.
2 October-14 November "12e Biennale de Paris", Musée de l'art moderne de la ville de Paris.
1 November: left for New York via London.
On 14 December, Nobuo Yamanaka died at Susumu Sakaguchi's loft in New York City.
On 19 December, he was cremated in New York.
On 23 December, he was laid ashes to rest at the Jonenji-temple, Tokyo.

Posthumous Exhibitions

1983 30 July-15 September "A Scene of Contemporary Japanese Art 2", Miyagi Museum of Art, Sendai
7 October-22 January '84 "Photography in Contemporary Art", The National Museum of Modern Art, Tokyo, The National Museum of Modern Art, Kyoto.
12-26 December "Nobuo Yamanaka + Hitoshi Nomura", Root Gallery, Tokyo.
12 December "Anchuki—2nd Anniversary of Nobuo Yamanaka's Death" Bank of the Tama River, Tokyo.
(3rd: 5 Dec. 1984, 4th: 21 Dec. 1985, 5th: 13 Dec. 1986 at the same place, 6th: 19 Dec. 1987 at Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts).
1985 18-30 November "'70's Expression by Photographic Medium", Kamakura Gallery, Tokyo.
1987 26 June-19 July "Art in Japan since 1969/Mono-ha and Post Mono-ha", Seibu Museum of Art, Tokyo.
1987 20 December - 30 January "Photographic Aspect of Japanese Art Today", Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts, Utsunomiya.
1988 27 February - 27 March "Image Expression as contemporary Art", Meguro Museum of Arts, Tokyo.
1989 14 November - 24 December "ON KAWARA AGAIN AND AGAINST", Institute of Contemporary Arts, Nagoya.
1994 21 February - 24 March, Individual Exhibition at Kamakura Gallery, Tokyo.



Kamakura Gallery

7-10-8 Ginza, Chuo-ku, Tokyo, 104 Japan

Tel.03-3574-8307 Fax.03-3574-8377